

船舶事故調査報告書

令和6年4月24日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和5年8月19日 15時20分ごろ
発生場所	兵庫県姫路市太島南方沖 男鹿島灯台から真方位049° 1.6海里付近 (概位 北緯34°40.5′ 東経134°36.4′)
事故の概要	プレジャーボートWeed Jrは、東進中、浅所に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和5年9月4日、主管調査官（神戸事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート Weed Jr、1.6トン
船舶番号、船舶所有者等	251-21600兵庫、株式会社エムクライム
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	プロペラ翼の脱落
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南、風力 2、視界 良好 海象：波高 約0.4m、潮汐 下げ潮の末期
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、知人5人を乗せ、姫路市男鹿島から帰航する目的で、GPSプロッターを作動させ、手動操舵で約25ノットの対地速力で太島南方沖を東進中、船尾部からゴンという音が聞こえた後、推進力を失って漂流を始めた。</p> <p>船長は、船外機をチルトアップしたところ、プロペラ翼が脱落して、船外機の下部が浅所に乗り揚げたことを認め、錨泊した後、118番通報して救助を要請した。</p> <p>本船は、来援した監視取締艇により姫路市所在のマリーナへえい航された。</p> <p>本船の喫水は、船首約0.3m、船尾約0.7mであった。</p> <p>船長は、太島南方沖を何度も航行したことがあり、太島の近くに浅所があることは知っていたが、航行距離が最短となるよう太島との距離を目視で確認しながら同島付近を航行していたので、同島からもう少し離れて航行すればよかったと本事故後に思った。</p>
分析	本船は、東進中、船長が、航行距離が最短となるよう太島付近を目視のみで確認しながら航行したことから、浅所に近づいていることに気付かず、同島付近の浅所に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、東進中、船長が、航行距離が最短となるよう太島の付近を目視のみで確認しながら航行したため、浅所に近づいていることに気付かず、同島付近の浅所に乗り揚げたものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考え

られる。

- ・ 船長は、浅所等の存在する海域を航行する場合には、GPSプロッター等を活用して船位を確認し、浅所等から安全な距離をとって航行すること。